臨床教育学講座教員による2009年度授業科目一覧

［学部提供科目］

■臨床教育学基礎演習Ⅰ（西平直）

【授業の目的と内容】

現代思想の源流として、フロイトの思想を学ぶ。

その基礎理論を入門的に丁寧に学ぶことに努めたい。

テクストは、エレンベルガーの大著『無意識の発見』（下）第七章「フロイトと精神分析」。

集中的に検討するのは「フロイトの業績」。

【受講に必要な予備知識】

テクストを事前に購入し、フロイトの箇所を呼んでおくこと。

また、フロイト精神分析学に関する入門的な参考書を購入しておくことも望ましい。

エレンベルガー『無意識の発見』（上）も貴重である。深層心理学に関心のある方は、上・下とも必携。

【成績評価の基準と方法】

平常点による。

【テキスト・参考文献】

エレンベルガー『無意識の発見力動精神医学発達史』（下）弘文堂、1980

■臨床教育学基礎演習Ⅱ（西平直）

【授業の目的と内容】

現代思想の源流として、ユングの思想を学ぶ。

その基礎理論を入門的に丁寧に学ぶことに努めたい。

テクストは、エレンベルガーの大著『無意識の発見』（下）第九章「カール・グスタフ・ユングと分析心理学」。集中的に検討するのは「ユングの業績」。

【受講に必要な予備知識】

基礎演習Ⅰを受講していることが望ましい。

テクストを事前に購入し、ユングの箇所を呼んでおくこと。

また、ユングに関する入門的な参考書を購入しておくことも望ましい。

エレンベルガー『無意識の発見』（上）も貴重である。深層心理学に関心のある方は、上・下とも必携。

【成績評価の基準と方法】

平常点による。

【テキスト・参考文献】

エレンベルガー『無意識の発見力動精神医学発達史』（下）弘文堂、1980

■教育人間学講読演習Ⅰ（岡本哲雄：近畿大学教授）

【授業の目的と内容】

20世紀に、とりわけ人間形成と超越の問題をめぐって、英語で著された教育哲学・人間学の遺産を読み解き、根元が揺らいでいる人間と教育の現在への示唆を探ることを目的とする。

【受講に必要な予備知識】

人間形成と超越についての関心

【成績評価の基準と方法】

「そのつどの演習課題」と「試験に代わるレポート」によって評価する。

【テキスト・参考文献】

Robert Ulich, “The Human Career, A Philosophy of Self-Transcendence”

■教育人間学講読演習Ⅱ（岡本哲雄：近畿大学教授）

【授業の目的と内容】

20世紀に、とりわけ人間形成と超越の問題をめぐって、英語で著された教育哲学・人間学の遺産を読み解き、根元が揺らいでいる人間と教育の現在への示唆を探ることを目的とする。

【受講に必要な予備知識】

人間形成と超越についての関心

【成績評価の基準と方法】

「そのつどの演習の課題」と「試験に代わるレポート」によって評価する。

【テキスト・参考文献】

前期のⅠに引き続き、Robert Ulich, “The Human Career, A Philosophy of Self-Transcendence”

■教育人間学概論Ⅰ（矢野智司）

【授業の目的と内容】

君たちが受けてきた学校教育は、君たちにとってどのような経験だっただろうか。自分がいちばん変わったのは、どのようなときだっただろうか。それは教育の成果といえるだろうか。自分の教育経験を振りかえりながら、一歩一歩「教育」という言葉にまとわりつく、重苦しい生命を失った言葉の鎖をとりのぞき、教育という世界に生命の風穴を開けて

いこう。そのためには、遊び・メタファー・ユーモア・贈与・供犠といった具体的な人間の生の変容の論理を学ぶとともに、教育という世界を生みだしている理念、そしてその歴史と思想の学習が不可欠である。夏目漱石や宮澤賢治の文学作品を手がかりに、そのような教育の理念や思想を再吟味しながら、生命の溢れた人間の生の変容の可能性を論じる。

【受講に必要な予備知識】

なし

【成績評価の基準と方法】

レポート（登録者多数の場合は試験）

【テキスト・参考文献】

矢野智司『自己変容という物語』金子書房

矢野智司『贈与と変換の教育学』東京大学出版会

■教育人間学概論Ⅱ（矢野智司）

【授業の目的と内容】

生成と発達の教育人間学：自己に対立する課題を克服するやりとりを「経験」と名づけ、「経験」することによって自己がより有能なものへと漸次成長していく過程「発達」と呼んでみよう。そして、自己が自己と世界との境を失い溶解する在り方を「体験」と名づけ、「体験」によって自己が変容する瞬間の在り方を「生成」と呼んでみる。最初の系は、普通「教育」と呼ばれているもので、基本的には共同体の内部で成熟した大人になっていく人間の変容を言い表している。後の系は、「喜びにあふれる遊戯」や「非知に触れるノンセンス」や「純粋贈与者との出会い」あるい「野生の動物との出会い」にみられるように、共同体の外部へと開かれてきた生きものに触れていく変容の在り方示している。戦後日本の教育学は、「発達」を目的とする人間形成について探求してきたが、この二つの系を手がかりに、「教育」と呼ばれる事象について考えてみることにする。

【受講に必要な予備知識】

なし

【成績評価の基準と方法】

レポート（登録者多数の場合は試験）

【テキスト・参考文献】

矢野智司『自己変容という物語』金子書房

矢野智司『贈与と交換の教育学』東京大学出版会

■臨床教育学専門ゼミナールⅠ（齋藤直子・西平直・矢野智司）

【授業の目的と内容】

卒業論文執筆において自分の主張をなす上で、異なる他者の思想と言語に耳を傾け受容し、そこから自分の声を発見しそれに言葉を与えることができるよう、英語による教育哲

学の学術誌の論文を読み、これに対して応答論文を書く訓練を行う。臨床教育学的な視座のもとに、言語に関わり、「読み」「書く」中で、自己を翻す経験を創ることを目指す。

【受講に必要な予備知識】

・英語による教育哲学の文献を講読するのに十分な英語力を必要とする。

・後期開講の「国際フロンティアC」（スタンディッシュ、齋藤）の授業と併せて履修することを推奨する。

【成績評価の基準と方法】

出席と学期末レポートによる。

＊臨床教育学講座で卒論を執筆予定の者は必ず履修し出席すること。

【テキスト・参考文献】

関連文献のコピーを授業時に配布する。

■臨床教育学専門ゼミナールⅡ（西平直・矢野智司・齋藤直子）

【授業の目的と内容】

明晰な文体と美しい日本語で書かれた現代哲学の文献を読む。

肌理細やかな言葉を丁寧に読む訓練に努めたい。

・テクストは初回（あるいは、ゼミナールⅠの最後に決定する）。

・臨床教育学講座で卒論を執筆予定のものは、必ず履修し出席すること。

【受講に必要な予備知識】

・ゼミナールⅠからの継続受講を原則とする。Ⅱのみ受講希望の場合は事前に相談に来ること。

【成績評価の基準と方法】

平常点による。

［大学院科目］

■臨床教育学研究Ⅰ（矢野智司・西平直・齊藤直子）

【授業の目的と内容】

臨床教育学と教育人間学の基本的文献を読み、論文指導を行う。また博士論文作成に向けた指導を行う。

【成績評価の基準と方法】

出席と発表。

【テキスト・参考文献】

出席者と相談のうえ決定する。

■臨床教育学研究Ⅱ（矢野智司・西平直・齊藤直子）

【授業の目的と内容】

臨床教育学と教育人間学の基本的文献を読み、論文指導を行う。また博士論文作成に向けた指導を行う。

【成績評価の基準と方法】

出席と発表。

【テキスト・参考文献】

出席者と相談のうえ決定する。

■臨床教育人間学特論Ⅰ（齋藤直子）

【授業の目的と内容】

アメリカの哲学者スタンリー・カベルによる日常言語学派の哲学の代表作、*The Claim of Reason: Wittgenstein, Skepticism, Morality, and Tragedy*（1979）を講読する。カベルの言語哲学が、単なる言語分析の理論ではなく、自己を内から外へ、心を社会へと解放する「解釈の政治学」および「教育としての哲学」としてもつ意義を解明する。特にその独創的で革新的な言語観として、「情熱的言語」や「父の言語」などの役割を明らかにする。

【受講に必要な予備知識】

・難解な著作のため、高度な英語の読解力を必要とする。

・テーマが関連する後期開講の「国際フロンティアC」（スタンディッシュ、齋藤）の授業と併せて履修することを推奨する。

【成績評価の基準と方法】

出席および期末レポート。

【テキスト・参考文献】

Stanley Cavell, *The Claim of Reason: Wittgenstein, Skepticism, Morality, and Tragedy* (Oxford: Oxford University Press, 1979).

■臨床教育人間学演習Ⅰ（齋藤直子・西平直・矢野智司・鎌田東二）

【授業の目的と内容】

国際学会や会議で外国語の論文を発表し質疑応答に対応し、国際的学術誌に外国語で論文を投稿することができるような論文の書き方を、大学院生自身の研究発表とそれについての応答論文（いずれも英語による）を中心にして学ぶ。適宜、学術誌に掲載された外国の研究者の論文へのレビュー、応答論文の書き方の訓練なども行う。とりわけ臨床教育人間学的観点から思想を外国語で伝える際、曖昧模糊とした思想領域に、伝達可能な翻訳言語を生み出してゆくことはいかにしたら可能かを考え実践してゆく。本年度は具体的に、国際学会発表や英語の学術誌への投稿を念頭において発表に臨むようにする。授業はすべ

て英語で行う。

【受講に必要な予備知識】

・参加者は外国語（英語）による発表を行なうことを求められる。

・後期開講の「国際フロンティアC」（スタンディッシュ、齋藤）の授業と併せて履修することを推奨する。

【成績評価の基準と方法】

出席および学期末レポートによる。

【テキスト・参考文献】

特にテキストは定めないが、*Journal of Philosophy of Education* や *Educational Theory* など、教育哲学関係の英語の国際学術誌に掲載された論文を適宜参考資料として用いる。

■臨床教育人間学演習Ⅱ（西平直・齊藤直子・矢野智司・鎌田東二）

【授業の目的と内容】

・教育人間学の諸問題を検討する。

・テクスト読解と発表形式を組み合わせる仕方で演習を行う。
テクストを丁寧に、確実に、豊かに読む訓練と、各自の問題関心を表現し、質疑応答する訓練と、その両者を同時並行する。

・進め方については、初回に決定する。

【受講に必要な予備知識】

なし。

【成績評価の基準と方法】

平常点による。

■臨床教育学演習Ⅰ（西平直）

【授業の目的と内容】

井筒俊彦の論文を読むことによって、東洋思想の理論枠組みを習得する。

さしあたり、華厳哲学をものの見事に解き明かした論文「事事無礙・理理無礙存在解体のあと」から。

【受講に必要な予備知識】

事前にテクストを入手し、一読しておくことが望ましい。

必要な方は、事前にコピーを受け取りに来ること。

【成績評価の基準と方法】

平常点による。

【テキスト・参考文献】

井筒俊彦『コスモスとアンチコスモス』岩波書店、1989

■臨床教育学演習Ⅱ（鎌田東二）

【授業の目的と内容】

「臨床」という言葉には「今、ここに実存する」という現場感覚がみなぎっていて、ひりひりした緊張感がただよっている。だが同時にそれは、「遊び」やパフォーマティブな身体性とつながっており、固定観念や硬直した仕組みを破砕する「臨機応変力」を生み出す母胎でもある。そんな臨床感覚や臨地感覚のありようを、民俗学的知と実践を手がかりにしながら捉え直し、大学周辺の「聖地」や「癒し空間」などをフィールドワークしつつ、臨床世界や臨地世界の広がりと深みを理論的かつ実践的に探ってゆく。

授業内容としては、①「臨床」における「臨」と「床」、あるいは臨機応変力と大地性、②臨床的現場感覚と民俗学的現場感覚身体性と間（半）主観性と他者性、③柳田國男と折口信夫と南方熊楠の臨床性を考える、④民俗学と教育学のインターフェイス「生きるちから」を問い直す、⑤「臨地感覚」と「聖地感覚」、⑥宮沢賢治の臨床教育実験と河森正治監督『KENJI の春』と『先生はホホーッと宙に舞った』などのほか、フィールドワーク候補地として、下鴨神社（賀茂御祖神社）、御所（京都御苑）、上賀茂神社（賀茂別雷神社）、吉田山、瓜生山、狸谷山不動院などを予定。

【受講に必要な予備知識】

知識よりも地志気あるいは臨床・臨地的好奇心

【成績評価の基準と方法】

出席とレポート

【テキスト・参考文献】

鎌田東二『聖地感覚』角川学芸出版、2008 年。

柳田國男『遠野物語』角川文庫、折口信夫『死者の書』角川文庫、鎌田東二『翁童論』4 部作、新曜社、1988～2000 年。

鎌田東二『宮沢賢治「銀河鉄道の夜」精読』岩波現代文庫、2003 年。

細野晴臣・鎌田東二『神楽感覚』作品社、2008 年。

河合俊雄・鎌田東二『京都「癒しの道」案内』朝日新書、2008 年。

■臨床教育学課題演習Ⅱ（岡部美香：京都教育大学准教授）

【授業の目的と内容】

教育に関するテキストを〈読む〉・〈書く〉とはいかなる政治的・社会的・人間学的行為か、について考察する。その際、〈読み〉えないこと、〈書き〉えないことがどのような意味をもつのかについて留意しつつ検討したい。文献資料の講読、さまざまな〈読み〉や〈書き〉の場の考察を手がかりに、受講者との議論を中心に授業を進める。

【受講に必要な予備知識】

特になし。

【成績評価の基準と方法】

出席点 25% 平常点 25% 期末レポート 50%

【テキスト・参考文献】

特に指定はしない。その都度、必要な文献を紹介ないしは配布する。

■国際教育研究フロンティアC（ポール・スタンディッシュ：ロンドン大学教育研究所教授・齋藤直子）

【授業の目的と内容】

This is a course in which we shall reexamine the implications of "ordinary language philosophy" for human transformation and democracy. Reading the texts of and on Ludwig Wittgenstein, Jacque Derrida and Stanley Cavell, we shall discuss how the irrespective attempts to return language to the context of the ordinary constitute a crucial condition for the internal transformation of human being, and hence, a creation of democracy from within.

言語との関わりを通じた自己変容、他者との受容的関係、そこから出発して外へ、公共性へと開かれる日常言語学派の哲学と、その教育的意義を考える授業です。先生の英語による講義と、学生の皆さんとのディスカッションを組み合わせて行います。自己・他者・言語の関わり、教育のセラピー、心の理論、民主主義と市民性の教育の問題など、広く「臨床の知」に関心のある多様な分野の方々を対象とします。

【受講に必要な予備知識】

Good command of English

【成績評価の基準と方法】

Attendance and final report

【テキスト・参考文献】

Nigel Blake, Paul Smeyers, Richard Smith, and Paul Standish, *Thinking Again: Education after Postmodernism* (Westport, Connecticut: Bergin & Garvey, 1998) Stanley Cavell, *The Claim of Reason: Wittgenstein, skepticism, morality and tragedy* (Oxford University Press, 1979) Paul Smeyers, Richard Smith and Paul Standish: *The Therapy of Education: Philosophy, Happiness and Personal Growth* (New York: Palgrave Macmillan, 2007)

Paul Standish, *Beyond the Self: Wittgenstein, Heidegger and the limits of language* (Aldershot: Avebury, 1992).